

# S NW対話会イン関東複数大学 2017

大塔容弘報告



1. 日時：11月4日(土) 12:10~18:00 (終了後掛川グランドホテルにて懇親会)
2. 場所：中部電力 浜岡原子力発電所
3. 参加者：合計24名 (敬称略)  
学生：17名 (原子力/工学系6名、文系11名) 東工大4、東大3、都市大1、  
東京女子大6、青山学院大1、立正大2  
シニア：6名 (出澤正人、武田精悦、松永一郎、三谷信次、大塔容弘、若杉和彦)  
中部原懇：玉越 武
4. 目的：  
浜岡原発の見学とシニアとの対話により、参加学生の放射線・原子力安全・エネルギー問題に対する理解を深め、意見交換すること。特に、文系学生にも分かり易く解説することに努める。
5. 往路バス内での勉強会 (12:10~13:00)
  - (1) 放射線の基礎知識 (若杉)
    - ・手持ちの線量計を用いて、社内の放射線量を測定： $0.04 \mu\text{Sv/h}$ 。
    - ・人が体内に保有する放射能は、 $^{40}\text{K}$ が主体で約7000Bq。
    - ・このように、自然界は放射線に取り囲まれている。
  - (2) 福島原発事故とその影響 (三谷)

- ・パワーポイント資料を基に説明。
  - ・一般人は、原子力をマスコミ情報だけからイメージを描いている。
  - ・それらからだけでは、正しい理解を得ることは無理と考える。今日のような機会を活用して欲しい。
  - ・福島事故とチェルノブイリ事故では、汚染の程度が全く異なる。福島事故に伴う追加線量+日本の平均線量と東欧・北欧の平均自然放射線量の比較を見れば判る。
  - ・オフサイトの汚染状況は徐々に改善されてきている。これからは、復興ではなく、開発だ。開発の重心は、廃炉措置開発研究にある。特に、デブリ処置問題である。
- (3) 原子力発電所の安全対策(出澤)
- ・社会の空気に流されてはいけない。
  - ・新聞報道はかなり偏っている。
  - ・ニュートラルな情報を得るには、資源エネルギー庁や中部電力のHPが良いと考える。
  - ・ここから、中部電力のHPからピックアップして作成したパワーポイント資料を基に説明。
  - ・この見学の機会を利用して、止めて、冷やして、閉じ込めるの強化された対策を自分の眼で見て確かめて欲しい。
  - ・100%安全はないとの前提で、原発の安全性向上に最大限努力している姿を見て欲しい。
- (4) 高レベル放射性廃棄物の処分(武田)
- ・パワーポイント資料を基に説明。
  - ・放射能減衰の経時変化を見ると、天然ウランレベルまで減衰するのに3万年要することが判る。
  - ・その間の安全性を担保するためのシステムが地層処分である。
  - ・地下深く埋める場合の問題点は地下水の挙動である。
  - ・施設閉鎖後の地下水の挙動である。それらを踏まえ、科学的特性マップが作成された。
- (5) 日本と世界のエネルギーの見通し(松永)
- ・パワーポイント資料を基に説明
  - ・これから、知識を増やすために、記載の参考資料とキーワードを活用して欲しい。
  - ・世界のエネルギー需要の推移を見ると、日本を除くアジアの伸びは大きく、先進国は横ばいである。
  - ・パリ協定(COP21)以後、世界は2050年の地球温暖化ガス排出量削減に向けて、様々な選択肢を考えている。しかし、日本の場合は未だ未定である。
  - ・原発のリプレイスや新設がなければ、僅かな基数となる。どう対処すべきか。2018年見直しのエネルギー基本計画が待たれる。

## 6. 浜岡原子力発電所見学

- (1) 浜岡原子力館(13:00~14:00)

—配布資料：

- ・安全性のさらなる追求、・浜岡原発の概要について、・原発の必要性について、
- ・安全性向対策工事の状況、・浜岡原発では、使用済燃料をどのように貯蔵しているのですか？、
- ・浜岡原子力館パンフレット

—川淵副館長の概要説明：

- ・浜岡原発の敷地は、約 50 万坪(160 万 $m^2$ )。1号機から5号機(#1～#4はBWR、#5はABWR)が設置されているが、#1と#2は廃止措置中、#3と#4は新規規制基準の適合性審査中、#5は海水流入事象に伴う対応中である。
- ・浜岡原発の特徴は、遠浅のために前面に港がないこと。物資の輸送は、10km離れた御前崎港を利用している。また、海水の取入れは600m沖合の取水塔から海水を取水している。さらに、隣接の県の温水利用研究センターでは浜岡原発からの温排水の一部を利用する研究を行っている。
- ・ウラン燃料は、横須賀の(株)グローバルニュークリアで製造している。因みに、燃料棒に収納のペレット1個当たりの発生エネルギーは一般家庭8.3か月分に相当する2500kWhである。
- ・日本の発電電力量構成比の推移から見える変節ポイントは、オイルショック→脱石油→ベストミックス→福島第1事故→原発再稼働が困難、となる。現在の火力発電の割合は、約84%で、その結果一般家庭の電気料金は25%アップ、CO<sub>2</sub>排出量の増加、自給率の低下が挙げられる。
- ・2013年7月に施工された新規規制基準後の取り組みについて、配布資料「安全性のさらなる追求」について解説。ハードの強化のみならず、ソフト面の強化、すなわち、緊急時即応班(ERF)の設置、総合訓練の実施、個別訓練の実施等を強調していた。
- ・使用済燃料のための乾式貯蔵施設の建設許可を申請中である。約2200体分の使用済燃料を貯蔵できる規模で、2018年頃の使用開始を目標としている。
- ・安全協定を締結している4市を中心に各自治体に対して、求めに応じて強化された安全対策について説明を行っている。また、一般住民、各自治体、各企業へ積極的に声掛けを行い、直に現場を見てもらうよう活動している。

—震災後安全対策事項の映写：

- ・南海トラフ巨大地震対策で、最大2000galを想定。
- ・津波対策として、海拔22mの防波壁を設置。
- ・建屋内浸水防止対策として、強化扉、水密扉の設置。
- ・現場の総力を結集した防災訓練。

—館内見学：

- ・実物大原子炉模型。
- ・実物大防波壁模型を見て、地上部構造、地下部構造を説明。



(2) 浜岡原発現場(14:00~15:45)

—敷地内見学：

- ・ 電源車、注水車駐車場
- ・ 斜面補強
- ・ 改良盛土
- ・ 防波壁
- ・ 強化扉
- ・ フィルターベント排管
- ・ 溢水防止壁、等

—5号機建屋内の見学：

- ・ 窓越しに中央制御室
- ・ 原子炉建屋に入り、窓越しにオペレーションフロア

7. 対話会（学生の感想 or 質問とシニアとの対話）（16:00~17:00、於 PR 館会議室）

（学生1）今回の見学は先生に紹介されて参加した。大学では英語専攻なので、原子力が全くなく、聞く内容が難しいと感じた。勉強してから、再度訪問したい。

（学生2）現状において、東大では原子力の話題は雌伏の時である。今回の見学会の募集についてのビラ掲示も張り出すなと言われた。何時になったら攻めに変わるのか。原子力の信頼が何時になったら取り戻せるのか、と思う。

（シニア）東大早野龍五教授も言っている。福島県民に対する放射線の啓蒙活動に対し、大学から止めて欲しいと言われていると。

（中部原懇）中部地方の大学は、そのようなことはない。名大も名工大も真面目に取り組んでいる。

（学生3）浜岡原発は、今回地震対策、津波対策を強化した。強化しなければならない

場所に何故立地ができたのか。科学的特性マップで候補となった自治体はどのようなところか。

- (中電) 原発の立地点に要求されるポイントは、岩盤が強いところ、冷却水の取得が可能なところ、そして住民が受け入れに対し理解をして頂いたことである。浜岡は、全てに合致したのである。
- (シニア) (地層処分に関する) 科学的特性マップは、4色に分けられている。火山や活断層が近くにあって適していない所、将来地下資源掘削の可能性のある所、好ましい特性が確認できる可能性のある所、さらにその上海岸線に近い所である。
- (学生4) 自分は日本文学の中でも古典を専攻している。源氏物語が描く1000年前の情報などほとんどない。現在に建設する処分場の情報が、1000年後に正しく伝えられる保証があるのか疑問だ。
- (シニア) 処分場の存在を伝えていく手段を現在研究中である。例えば、石碑を建てるとか。
- (学生5) 安全基準を満たすとはどのようにして決めているのか。また、今後原発の信頼を勝ち取るにはどうしたらよいのか。
- (シニア) 安全率の高い基準を作り、法制化し、それを基に全てをチェックする体制である。
- (シニア) 日本の場合、広島・長崎の被爆経験のトラウマ、最近変化があったが、これまでの義務教育での放射線教育不足、危険と書く方が良く読まれるというマスコミの影響、これらが反原発の要因であると思う。今回のような活動で、見て、触れて原発を直に感じてもらい、その経験を身近な人と語らい、問題点を感じたら専門家に聞く、というような活動が必要ではないか。
- (シニア) 今の点については、配布した資料「原子力の誤解を考える(第2版)」第2部(原子力国民会議編)を読んで欲しい。
- (中部原懇) 原発の場合、今建設を開始しても完成は20年後、従って今を生きる若い人の問題として捉えて欲しい。
- (学生6) 自分は環境政策を専攻している。超長期期間に及ぶ管理の問題は、将来世代のことを考えて対処する必要がある。原子力も同じで、高レベル廃棄物問題を将来世代にどう説明するのか。
- (シニア) 高レベル廃棄物処分の中で、地層処分は将来世代に受け入れてもらえる解答と考えている。将来世代に負担を負わせない手法である。しかし、地層処分以外の新しい手法も開発されるかもしれない。それは、将来世代に考えて欲しい。それが無理であれば、地層処分ということになるのではないか。
- (シニア) 将来世代にわたって、エネルギー源をどう確保するのか。高速増殖炉がエネルギー源問題の解決になるし、CO<sub>2</sub>問題からの解放にもつながる。
- (学生7) 今回の見学で原子力の安全性が理解できた。他人に聞かれても答える知識を得ることができた。原子力発電が永久的なエネルギー源になると聞いているが、高レベル廃棄物処分問題が存在していても永久的なエネルギー源であるのか。
- (中部原懇) 原子力は技術が作っているエネルギー、技術の発展が期限の延長につな

がると考える。

- (学生 8) 地層処分は長期的に心配がないのか。原子力エネルギーの発生する廃棄物は極端に少ない。国民が自分たちの生活レベルをどうしたらよいのかを考えて判断すべき問題と考える。
- (学生 9) サイバーセキュリティ問題とテロ対策を住民にどう説明しているのか、ヒューマンエラー対策、隠ぺい問題、地域経済に原発をどう活用するのか、このような件についての説明がなかった。ところで、ヨウ素剤の配布について住民はどう受け止めているのか。危ないものと思い、受け取りに抵抗がないのか。
- (中電) ヨウ素剤は自治体が配布している。住民個人は自治体から説明を受け、医師の判断を聞いて服用することとなる。
- (シニア) 5km 以内に住む住民は、副作用よりも飲んだ方が良いことになっている。
- (学生 10) 自分は高校の社会科教員の免許を取得した者である。今回の見学で、広報にお金を掛けていることが良く判った。リオ五輪の際、安倍首相は汚染水問題はアンダーコントロールの状態と言った。その後、漏れ出してもアンダーコントロールなのか。また、昔佐藤総理が原発建設は核武装を考えているからだと言ったそうだが、本当か。
- (学生 11) 原子力部案内な者であるが、原子力安全対策をしっかりとやっているのが見えてうれしくなった。
- (学生 12) SNWは対話会後にアンケートを学生に求めているが、アンケート結果から、見学前後で原子力に対する捉え方が変化したのか知りたい。
- (シニア) 前後で変化している。自分の眼で見、考えることが重要な証である。



## 8. シニアの感想

[松永]

対話イン関東複数大学は例年、原子力系学生との対話となっているが、今年は文科系学生が半分を占め、そのうち女子学生が半分といういままでと全く趣のかわったものであった。また、新規制基準に対応すべく各種施設の改造、新設をしている浜岡原子力発電所の見学付きであった。まず初めに発電所につくまでの45分間に自分を含む4人の講師から4つのテーマについて簡単な説明を行った。時間が短かったのでそれぞれ触りの程度しか説明できなかったが、ほとんどの参加学生にとって日頃考えることのない原子力・エネルギーに関して、ある程度の予備知識を得るのに効果があったものと思う。原子炉施設の見学後に個々の参加学生から質問ないし感想を述べる時間を1時間取ったのは新しい試みであり、非常に良かった。学生たちにとって、実際に原子力発電所を見学するのは初めてであり、またそれが刺激になり、数多くの率直な質問、意見が出てきたものと考えられる。参加シニアは皆「世間の風潮に惑わされることなく、自分の目で見て、自分の頭で考える習慣をつける」ことを強調したが、その意味がかなり理解されたものと考えられる。

今回のような見学付き対話会はその意味から非常に効果が期待できる（特に文科系）が、幹事学生の三島理愛さんや中部原懇の玉越氏および中部電力の協力がなければ実施できなかったであろう。それらの方々に深甚なる敬意を表します。

なお、個人的な施設見学の感想として・・・今回は4回目の見学でしたが、東電福島事故後、初めてのものでした。新規制基準対応とはいえ、全長1.6キロメートル、高さ22メートルの防潮堤には圧倒されました。また過剰ともいえる数々の安全対策を見て、これでも再稼働に反対の意見が出ることに、はなはだ疑問を感じました。この実態が世間に知られていない、あるいは知っていても報道しないマスコミや原発を政治利用しているとしか言えない川勝静岡県知事に腹が立ちます。また今回のように「百聞は一見に如かず」で、できるだけ多くの一般市民が原子力発電所を見学できれば安全に対する理解増進に役立つのですが、テロ防止上、どうしても少数の者しか見学が許されないとのことで、この辺、どうにかできないものかと感じた次第です。

[三谷]

すでに松永さまが的確に素晴らしい感想文をお書きで、さらに付け加える所がないくらいです。強いて強調すると今回の文系学生を入れた対話会は、これまでにないマンネリを打破した素晴らしい試みであったと思います。これからは多くの文系の人達と対話や議論をする機会を増やすことも大切ではないかと感じました。見学後のアンケートで学生の一人が「原子力は必要悪だ」と書いていました。「原子力に代わる機能を秘めた新しいエネルギー源が次に出てくるまでは、今の原発を慎重に使いこなす以外今のところ仕方がない」という回答をこれまで主として理系の学生達から聞いてきました。実は私もそのように思っています。より安全で過酷事故が起きにくい、放射性廃棄物の半減期の極端に短い、核物質防護上すぐれた機能を持ち合わせた次世代原子炉の研究・開発が現在少しずつ進められています。一部マスメディアが反(脱)原発を掲げて、原子力の技術そのものの進展を否定したスタンスでキャンペーンを張っている限りにおいては、将来の原子力人材の育成という点で極めて遺憾というほかありません。

[出澤]

日頃、草の根リスクコミュニケーションで過ごしているところ、今回、若杉さんに機会を与えられ、参加された学生の皆さんの動機に興味を持ちつつ参加させて頂きました。往路バスの中で与えられた浜岡原子力発電所の安全対策6分間説明は、事前に中部電力のHPにあるビデオが良くできているのでそれを使うつもりでした。しかし、参加の動機に敬意を表することと原子力利用に係わる様々な情報の中で、中立的な情報は資源エネルギー庁、中部電力のHPであり、広範にわたり豊富な情報が分かり易く盛り込まれていることを紹介し、「原子力の誤解を考える」(原子力国民会議)を配布するとともに、第二部で考察している誤解のメカニズムの分析を読んで欲しいことを伝え、自分の目で見、自分の頭で考え対話したいことを伝えました。安全対策に関しては、止める、冷やす、閉じ込めること、失敗を克服して常に安全性を高める宿命であることだけを述べました。なお、PR館でHPにあるビデオと同じ内容のDVDが上映されました。学生さんとの対話は他のシニアの方々の報告、感想の通りです。あえて、印象を付け加えるとすれば、見学した個々の施設に関するより、立地地域の誘致、超長期にわたる管理、将来世代への懸念、深層防護の兼ね合い等、原子力利用に関するより本質的な問題意識を持っているという印象を持ちました。復路バスの中、懇親会の席でもこれらの点について対話でき有意義な時を過ごさせて頂き感謝申し上げます。

[若杉]

今年の関東複数大学対話会は、参加学生の募集に難点があった昨年の例を反省して、原子力施設の見学を含めた新しい企画とし、学生連絡会の協力の下に参加学生を募集して実施した。特に今までほとんど参加のなかった文系女学生も対象にして募集し、原発見学の他、エネルギー問題や原子力の是非についても意見交換する機会を目指したが、当初のもくろみどおりの成果が得られたと考えられる。事後アンケートの結果からは、文系学生の原子力発電や世論に対する見方と理系学生の見方との間に鮮明な相違がみられ、示唆の富む内容は我々シニアにとっても大いに参考になった。

施設見学の後は浜岡PR館の会議室を借り、1時間足らずであったが学生との対話を行なった。当初シニアによる講演を計画したが、十分な時間が取れないため特に文系学生には不消化になるかも知れないとの配慮から、急きょ一人一人から質問か感想を述べてもらい、シニアが手分けして答える方式を採用した。理系学生にとってはやや不満足であったかも知れないが、文系学生から質問や意見の活発な発言があり、相互に得るところが多々あったと思われる。

今回は、学生連絡会の三島会長が中心になって学生の募集や取りまとめを担当していただき、発電所見学については中部原子力懇談会の玉越事業部長や浜岡原子力館川淵副館長の関係者に大変お世話になった。この場を借りて厚くお礼を申し上げたい。

[武田]

浜岡での見学会・対話集会に参加し、発電所施設内部、防波壁、原子力館などを見学した。

防波壁を含む施設全体の安全対策・安全管理がソフト・ハード両面においてしっか

りなされていること、事故時の対応が綿密に計画されていることに改めて感銘を受けた。また原子力館自体の充実もさることながら、案内役である説明者の原子力に関する知識が十分だったこと、見学者への対応が合理的に組織化されていたことにも感心した。浜岡原子力発電所の早急な再稼働に期待したい。

対話集会は施設への行き帰りのバスの中と、見学終了後会議室での1時間程度行われた。プレゼンはバスの中のみで、計4件各10分程度と短いものだったが、学生の方々もそれなりにしっかり受け止めた様子だった。原子力に関心を持つ学生が少なくおらず、積極的に参加していたのに感心した。もっともこれは、学生の意識が高いというより、意識の高い学生が参加したのだから当然というべきか。地層処分問題への関心も高く、科学的特性マップの内容や、現世代の責任、超長期にわたる記録の問題などについての質問があった。

学生間でも知識のレベルに差があったようだが、一方的に情報を伝えるよりも、学生との議論を通じ、ともに考えていくことが重要ではないかと感じた。今回は発電所の見学が主目的だったこともありやむおえない面もあるが、プレゼンや対話の時間がやや少なかったように思う。いずれにせよ、次の時代を担う若い人たちと意見交換できたことは自分にとっても有意義だった。

#### [大塔]

今回の対話会実施概要が送られてきた時、参加学生たちの所属大学先を見て戸惑ってしまった。大学名のみで判断しても、原子力に無案内な学生が半数以上を占めている。提示されたテーマ別に分かれてグループ内対話を行った場合、工科系と文科系の学生たちの混在が予想されるが、対話のスムーズな進行のためには、シニア側からの説明内容をどちらサイドに置くべきかについての戸惑いである。

幸いなことに、学生とシニアの対話は、川淵副館長の浜岡原発の現状における概要説明と現場見学後に、グループ分けせずに若杉世話人から指名された学生が自分が持つ疑問点や感想を何ら気負うことなく率直にシニアにぶつけるという進め方になった。シニアは、学生たちの発言に耳を傾け、彼らの原子力に対する知識度をうかがいながら回答することができた。ひとつの手法ではないかと感じた次第である。

折角の浜岡原発見学であるから、南海トラフ地震に関連しての新規制基準対応についての質問が集中するのではないかと思ったが、僅かに1、2問であった。多くはマスコミで話題となっている項目を表面的に触れる程度の疑問や感想が多く、浜岡原発では福島第1原発事故のようなものは本当に起こらないとするならば、その根拠は何かというような本質を突くような発言はなかった。この機会を活用し、中電やシニアから科学的で論理的な説明を受けて、納得し安心するという姿勢を見ることは残念ならなかった。これが現実かと感じた次第である。

現場見学を通じて、中部電力ホームページ上の一枚の絵として見ることのできる新規制基準に対する対策の現物をこの目で見て感激した。巨大地震に備える耐震設計、津波の侵入に備える海拔22m、総延長約1.6kmの防波壁とその両端に設置された改良盛土、重大事故に至らせない電源供給・注水・除熱対策、そして重大事故に至った場合の対策、等。これ程までの安全対策を講じても、基準に合格と言うだけで安全宣言を拒否する原子力規制委員会に対し、国民は使命を果たせと迫るべきと率直に思った。

## 9. 事後アンケート結果

若杉作成

(1) 対象と回答率 対話会参加学生 計17名、回答者数 16名  
回答率94%

### (2) アンケート結果

以下の項目番号はアンケート設問番号に同じ。

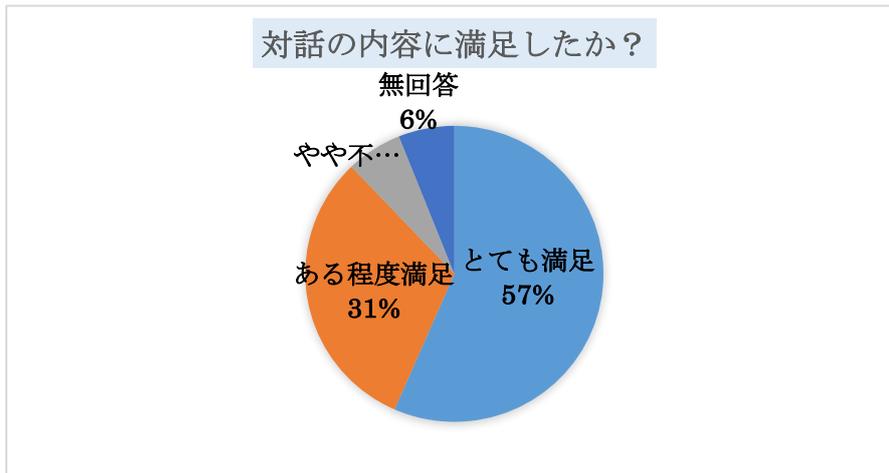
2) 対話の内容は満足のものでしたか？その理由は？

・とても満足した9 ・ある程度満足した5 ・やや不満だ1 ・大いに不満だ0

理由：文系学生の意見や質問を興味深く聞けた。

講義でなく、対話だったので話が活性化した。

もう少し時間が欲しかった。



3) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

・十分聞くことができた4 ・ある程度聞くことが出来た10 ・あまり聞けなかった1 ・全く聞けなかった0 ・無回答1

理由：福島事故は、ニュースでは分からなかったが、話を聞いて良く分かった。

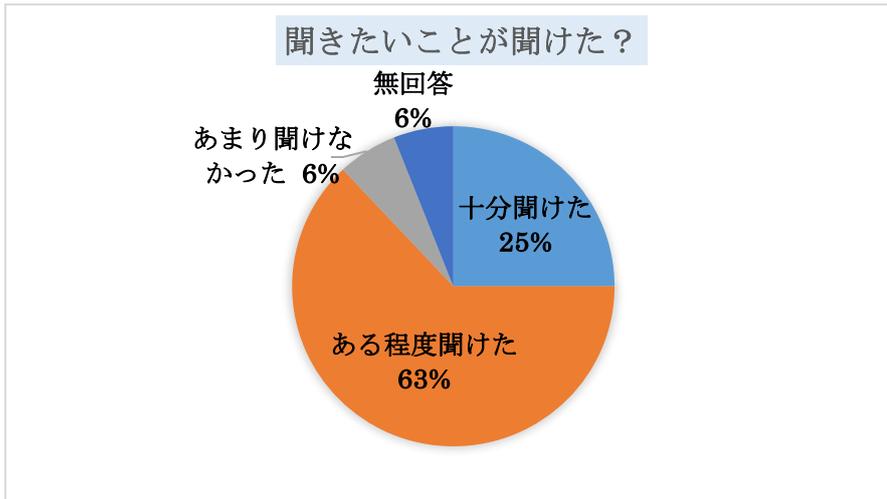
対話会の時間が足りなかった。

質問の時間を設けて下さったから、よく聞けた。

再稼働に向けての対策を詳しく聞くことができた。

歩きながら専門家の方々と会話できた。

サイバー対策はあまり詳しく聞けないから（あまり聞けなかった）。



4) 今回の対話で得られたことは何ですか？（複数回答も可）

- |                           |          |
|---------------------------|----------|
| ① 新しい知見が得られた。             | 15 (58%) |
| ② マスコミ情報と今回の対話会情報に違いがあった。 | 5 (19%)  |
| ③ 自分の将来の進路の参考になった。        | 2 (8%)   |
| ④ 教育指導の参考になった。            | 3 (12%)  |
| ⑤ 特に新しい知見は得られなかった。        | 0        |
| ⑥ その他                     | 1 (4%)   |
- ・その他：他の参加者の着眼点が新鮮だった。

5) 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

・非常にある 10 ・ややある 4 ・あまりない 1 ・全くない 0 ・無回答 1  
理由：実際に専門家の人と話す機会はなかなかないから。

シニアの考えを知る必要があるため。とても勉強になったため。

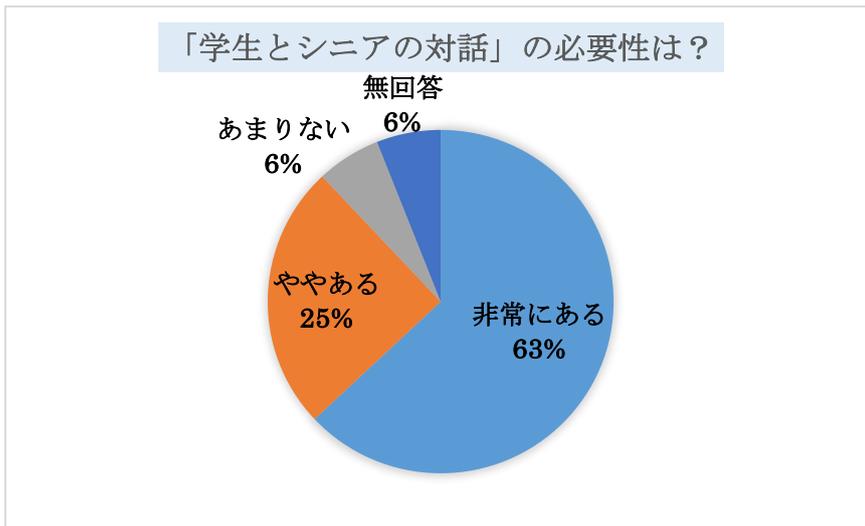
「何が分からないか」は直接話さないと伝わらないと思うので。

先達の知見を得られる点に意義を感じる。

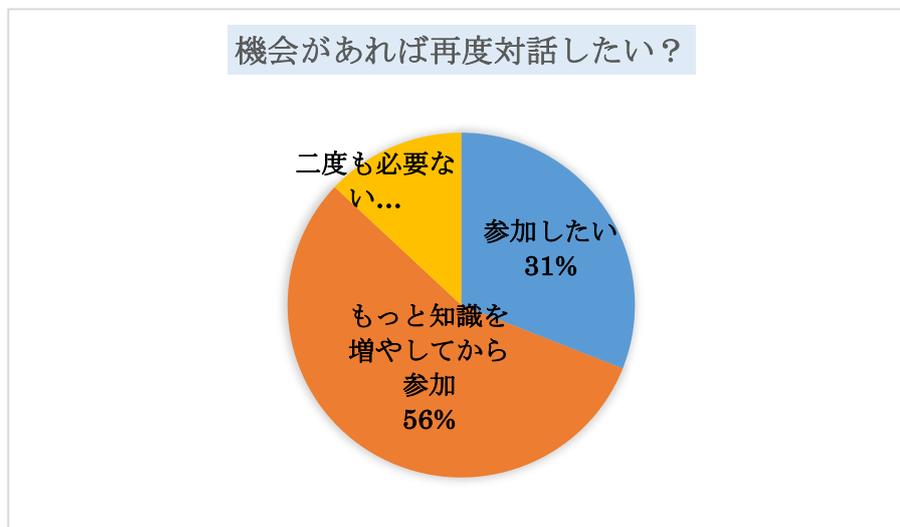
熱意のある方々の生の声をきくのは、こちらの気持ちの持ち方を変えてくれたと思う。

対話をしてもいいが、社会には大きな影響は出ないと思います(ややある)。

シニアと対話する必要があるかは微妙 (文系)

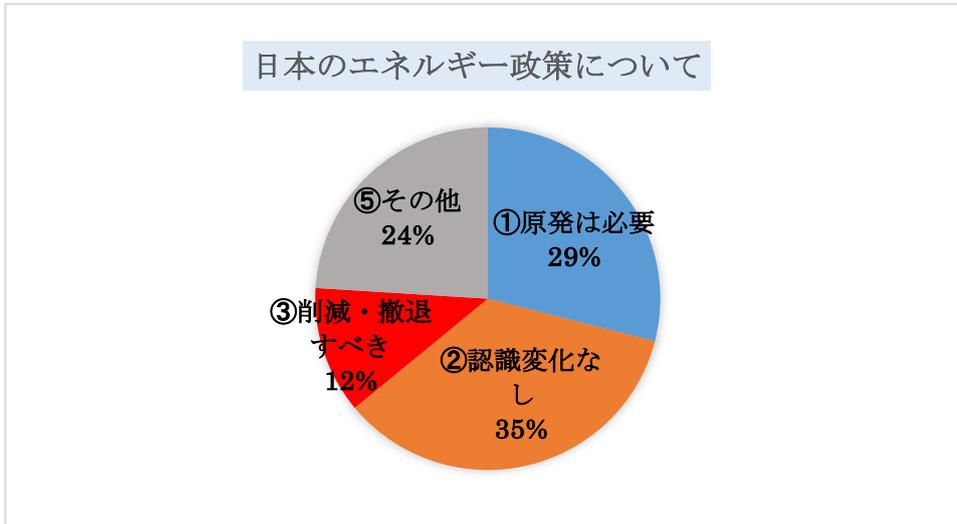


- 6) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？
- ・まだまだ話したりないので参加したい 5
  - ・もっと知識を増やしてから参加したい 9
  - ・十分話のできたからもういい 0
  - ・二度も必要ないと思うからもういい 2
  - ・その他（空欄に記入） 0



- 7) 放射線、放射能に対してどのようなイメージを持っていますか？（複数回答も可）
- ①放射線、放射能はやはり怖い。 2 (10%)
  - ②一定のレベルまでは恐れる必要はないと以前から知っていた。 10 (50%)
  - ③一定のレベルまでは恐れる必要がないことを講演、対話から理解できた。 3 (15%)
  - ④放射線、放射能は生活に有用であることを前から知っていた。 5 (25%)
- 8) 日本のエネルギー政策では、原子力発電を基幹電力（2030年に発電電力量の20～22%）とし、省エネ・再エネ利用の拡大や火力の高効率化により、可能な限り削減していくとされています。対話も含めてあなたの認識は次のどれですか？その理由は？（複数回答も可）

- ①原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない。 5 (29%)
- ②原子力発電の必要性は分かっていたので、対話の前後で認識は変わらなかった。 6 (35%)
- ③原子力発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ。 2 (12%)
- ④原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい。 0
- ⑤その他 4 (24%)



理由：“必要悪”ということです。より効率的で安全で低コストな代替エネルギーがあれば、その比重を増やすべきだと思う。(文系)

実際、原子力より効率的な発電方法は存在しないため。

サイバー対策等の方法・安全性について、金額について分からないので現時点では答えられない。

原子力発電はハイリスク、ハイリターンであるため、リターンだけ考えると将来的にもとても必要なものだと思うが、リスクが大きいため世論の反発が大きいため、原発はなくなってしまわないかと思えます。結論、僕はテレビからしか情報を得ることができないので、エネルギー問題は世論をどれだけ得ることができるかが大事だと思います。(非原子力系)

世代間の公平について議論を進めるべきだと思う。(文系)

安全対策はされているが、将来のことを考えたら安全とはいえないのではないかと考えたから(削減又は撤退すべき)。(文系)

現時点では逆にこれしかないと思ってしまいました。でもきっと20年後には更なる良い技術があるはずなのでそれに期待したい。(削減または撤退すべきでない。文系)

9) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

・「わからない」という事実、というか科学の本質って伝えるのが難しいのかなど。

「学者・エンジニア・政策立案者→メディア→その他」のどこかで「わからない・不確実」を受け入れられない段階が出てきている印象。(文系)

- ・進行方法としてシニアの名前と経歴などを一覧であると話しかけやすかったです。
- ・原発反対という意見がなく、賛成ばかりだったので偏りがあったような気がします。例えば反対派やマスコミを交えた議論が聞けると非常に充実するのではないかと思った。但し論点は絞るべきだと思う。(文系)
- ・見学者を多く受け入れていることが印象的だった。
- ・非常に勉強になりました。ありがとうございました。(文系)
- ・文系と理系の考え方の違いを感じられて面白かったです。文系はやはり感情に流されがちだし、理系は数や値に信頼を置き過ぎていて、対話の大切さを感じました。私自身学校の放送部で番組作りに携わり、マスメディアの先輩方の話を聞く機会があったので、情報の取捨選択のむずかしさを少しは知っていると思います。でも、マスメディア（特に新聞）は文系の人たちが多いように思います。だからこそ、文系学生（これから文化を担う者として）は学びを深めるべきだと思います。(文系)
- ・浜岡原発の安全性への理解を深めることができた。

(アンケート結果に関する感想：若杉)

原発見学と対話会を組み合わせたこのような機会を回答者のほとんど全員が有効なものとして肯定的に受け止めている。文系学生が多数参加したため、対話会をざっくばらんな感想と質問の場にしたことが、理解と交流を深めたことに役立ったのではないかと感じる。ただ、文系学生の考え方が理系とはかなり異なり、見学や対話の後でも、原発はやはり危険なものとして削減又は廃止すべきとする複数の回答があったことに注目したい。

以上